

令和6年度 港区立高松中学校経営計画

港区立高松中学校
校長 中山 幸子

1 教育目標

個を生かし、豊かな人間性と社会性を育む教育を推進する。

- ・深く考え、進んで学ぶ人
- ・思いやりのある心豊かな人
- ・健康でたくましく生きる人、

2 目指す学校像

- ・生徒が夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を切り開く力をもてる学校
- ・教職員がやりがいを持ち、教育目標達成に向けて一丸となって取り組める学校
- ・保護者、地域から信頼され、ともに生徒を育てる学校

3 中期的経営目標と方策

(1) あらゆる教育活動の場で、生徒自らが学びの主体者であると自覚をもち、授業や特別活動等で手応えや自分の成長や成果を実感できる指導を実施する。

【方策1】

「高松中生のあたりまえ」の行動化を教育活動の根幹とし、学年、分掌、部活動指導等の各方面で創意工夫するとともに、家庭・地域・関係諸機関と協同して定着の維持に努める。

【方策2】

生徒一人ひとりが自身の強みや良さを知り、課題に対して積極的に取り組める主体性に着目し、教職員間で情報共有の徹底を行い、生徒との信頼関係を強固にするとともに生徒の活躍の場を提供する。

【方策3】

生徒の学びに向かう力、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育むため、教授型から探求型の授業改善に努めることで基礎・基本の知識・技能の習得を核としながら、それらを活用する思考力・判断力・表現力を育てる。

【方策4】

教材研究及び生徒理解に資する研修に努め、わかる授業、楽しい授業、参加できる授業を実践する。

【方策5】

教科等横断的な学習効果はもとより、授業と特別活動の往還性を生かすことで真の学力向上や前向きな将来展望の育成につなげるカリキュラム・マネジメントを行い、指導計画の刷新を図る。

高松中生のあたりまえ

- あいさつ・返事は元気よく
- チャイム始業
- 自ら正す「フォーマルゾーン」、人を認める「三行日記」

(2) いじめ・体罰等の根絶を図り、安全、安心な教育活動を展開するとともに居場所のある学校を構築する。

【方策1】

「港区立高松中学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的に対応し、未然防止、早期発見、早期解決を目指す。

【方策2】

生活指導部を中心に問題行動等の予測や早期発見に努め、迅速で的確な対応を目指し、徹底した情報共有を行う。

【方策3】

いつでも、どこでも、誰とでも相談できる教育相談体制の充実を図り、居場所としての学校と認識できるかかわりをおおして、所属意識、自己肯定感の育成を目指す。

【方策4】

日頃より規範意識を育む指導を行い、授業の規律維持に全力を尽くす。生活指導の原点は日々の授業であることを共通認識し、規律とけじめのある授業に向けた取組を行う。

【方策5】

授業規律はもちろん、生徒の主体性を育みつつ人権感覚を高める生活指導を学年・学級を超えて全校体制で組織的に行う。

【方策6】

家庭と協力し、微細な変化の気付きをキャッチし先見的なかわりを行い未然防止や早期発見に生かす。

(3) 特別支援教育の充実

【方策1】

生徒一人ひとりに応じた一貫した指導を行うことにより自己理解を深め、よりよい社会性を身に付けられるよう特別支援委員会の活性化を図る。

【方策2】

気がかりな段階での情報共有を徹底し、具体的な対応策を検討し全校体制で実践する。

個別の支援計画、指導計画の立案・実施・検証を行い、当該生徒の得意とする能力の延伸と社会性の向上を図る。

【方策2】

特別支援教室、特別支援学級、通常学級との連携を強化するため、生徒間交流の場を拡充する。

(4) 不登校生徒の減少に向けた取組みの充実

【方策1】

生活指導部会、特別支援委員会での情報共有時に、必ず対応策と成果を確認し改善がない場合は、他の具体策を講じる。

【方策2】

家庭との連携が希薄にならないように、連絡を取り合う。状況に応じて可能な範囲で家庭訪問、オンライン面談や時間差の登校、一部の授業または行事参加など合理的配慮の工夫を行う。

【方策3】

必要に応じて、他機関との連携により不登校の改善等に生かす。

【方策4】

(2)の**【方策3】**参照

4 令和6年度重点目標

(1)ICT を活用した学びの充実

【方策1】

昨年度から実施している校内研究の取り組みを意欲的に実践し、授業力の向上を図る。

タブレット端末を有効に活用し、「文房具」として各生徒が主体的に活用できるように指導し、ICT を活用した協働的な学びの充実を図る。

【方策2】

デジタル教科書の利用、タブレット端末を介した発表の場を増やし、ペーパーからネット上のやりとりができるものを抽出し、段階的に進める。

【方策3】

個に応じた指導を充実させ、個別最適な学びを確保する。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教室専門員との連携を深め、支援が必要な生徒の特性を理解し、個に応じた適切な指導ができるようにする。

【方策4】

傷病、学級閉鎖・災害等で登校できない生徒の学習機会の保障として、学習者用端末を活用したオンライン授業への参加ができるよう実施基準や学習環境の整備を行う。

(2)総合的な学習の時間の充実

【方策1】

学校全体のテーマを「SDGs の実現をめざす生徒の育成」とし、3年間を通じて世界を知る、日本(東京)を知る、よりよい共生社会を生きる将来について、系統的・計画的な指導計画の下に全校体制で実施する。教科横断的な単元配列等の工夫を行い、自分ごととして課題を解決する力を高める。

【方策2】

各学年の発達段階に即し、課題を発見し設定する力、情報を集め分析する力、課題を解決する力、自分の考えを発信する力などの資質・能力を育成する。また、自己を高め、よりよく生きていくために自分を見つめ、社会や地域に視野を広げ、持続可能な社会づくりに向けて地域創生等に生かそうとする意欲や態度を育てる。

【方策3】

関係機関や最新の取組を展開している事業団体等を招聘し時機を捉えた情報や世界、諸分野の現状の理解を深める。

(3)開かれた学校経営の充実(コミュニティスクール委員会設置による地域との協働)

【方策1】

実社会を学ぶためのカリキュラムマネジメントを教務・ミドルリーダー層で検討し、協力関係機関等の洗い出しを行い、コミュニティスクール委員会への提案により、教育活動の協働に生かす。

【方針2】

コミュニティ・スクール委員会設置初年度であり、円滑な運営を行いつつ、各所との連携や協働する教育活動の検討後に学校地域支援本部の立ち上げと実践が軌道に乗れるようにする。

【方策3】

学校評価アンケート結果を次年度の改善内容に確実に反映し、学校と保護者・地域と連動した教育活動を進める。学校評価結果をもとに地域学校共同本部の協力を得ながら、教育活動を行う場面を設定し、共に生徒の成長に資する協働体制を構築する。

【方策4】

地域の所行事に参加し、地域に根ざした生徒・保護者・地域との交流を大切にした共感の教育を進める。

(4) 教職員の働き方改革の推進

【方策1】

会議用資料のペーパーレス化やネット上での処理ができるものはフォームを通じて行うなど担任の回収作業、未提出確認作業の負担軽減を目指す。

【方策2】

会議等を効率的に運営し、生徒と向き合う時間や年次有給休暇の取得につなげる。

【方策3】

情報の共有に心配りし、公平で公正な、明るい職場環境を作る。互いに心配りし、時間管理、健康管理に努める。

【方策4】

休憩時間の変更により、時間の有効活用、年次有給休暇の取得をしやすいようにする。

【方策5】

年次有給休暇の取得がしやすいよう土曜授業の時間割の工夫、定期試験期間、学校休校日を活用し、互いに協力する。

(5) 国際理解教育の充実

【方策1】

関連教科との教科横断的な連携をしながら、学習効果を最大限にする。

【方策2】

海外修学旅行に向けて、「英語科国際」の授業でシンガポールについて調べ、タブレット端末を利用して発表活動等を行い、国際理解を深める。

【方策3】

大使館交流では、事前・事後学習としてレポートや発表活動を行い異文化理解を深める。

【方策4】

「百人一首大会」「書初め」など、我が国の伝統や文化に対する愛着や尊重の心を育み、グローバル社会の中で自国の伝統と文化を尊重し発信することができるようになるための取り組みを積極的に行う。

【方策4】

オンライン放課後英会話教室への参加を周知し、「話す英語」教育の推進につなげる。

令和6年度も
どうぞ、よろしくお願
いいたします。

